

イスラームのグローバル性と地域性

小林 寧子

私の研究は、「イスラーム地域研究」と呼ばれる分野に入ります。イスラーム教徒(ムスリム)が住む地域社会で何が起きているのかを把握し、その社会発展のメカニズムを説明します。従来の「地域研究」に加えて、イスラームそのものに関する知識(法学、神学、神秘主義など)が必要とされます。ムスリムの行動指針となる「イスラーム法」に注目して法制度、日常生活の規範、思想を分析します。特定地域のムスリム事情を論ずるだけでなく、他のイスラーム地域との比較検討も重要になります。その土地の風土、伝統、慣習が考慮されているかを見るためです。

私がイスラームに「出会った」のは、大学院時代にインドネシアに2年半滞在したときでした。イスラームが生活の様々な側面に顔をみせることを見て、「近代化が進むと宗教的影響力は衰える」という大学で学んだ近代化論と全く異なる現象が起きているのを知りました。開発政策が大きく社会を変容させていく中で、人々はますます宗教を頼り出すようになっていました。特に、現代社会に起きる問題にイスラームの観点から解決方法を見出すような姿勢に強く惹かれました。通常ムスリムは何か問題に直面するとよく宗教学者(ウラマー)に助言を求めます。相談の内容は家庭内問題(夫婦の諍い、相続配分)から商売上のトラブルまで様々です。

私の研究



こばやしやすこ
外国語学部アジア学科 教授

専門分野: インドネシア(東洋学)
長年テーマはインドネシアのイスラーム、およびイスラームのインドネシア化。
主な著書: 『イスラームの歴史』(講談社)
『イスラームの文化』(講談社)
『イスラームの社会』(講談社)
『イスラームの経済』(講談社)
『イスラームの政治』(講談社)

ウラマーはコーランや宗教書だけでなく、他の学問分野も動員して見解を出します。広い見識が要求されると同時に、問題が起きた「状況」を考慮して判断できるかが問われます。時には、医療に関する問題、国の政策(家族計画、土地改革)、新しい金融システムの導入などの公的問題についても判断します。ウラマーたちは頻りに意見交換、議論をします。ウラマーの間で見解が異なることはよくありますし、助言はいくつかの選択肢で示されることもあります。

ムスリムはどのような問題に直面しているのか、また、ウラマーはどのような見解を出すのか、地域によって違いはあるのか、さらに地域は同じでも時代とともにそれは変わっていくのか、討論の現場での実見、インタビュー、新聞・雑誌、あるいは記録をたどってムスリムの知的営為を描き出すのが私の仕事です。イスラーム世界に共通の基本原則と地域・時代の事情の間でイスラームは、多様な発展を遂げるとともに、また一体性を求めるという動きを、同時に繰り返しています。複眼的に事象を見ることが求められます。法律科PCCにある法学古典文献を眺める



ロボットを制御するソフトウェアを開発してみよう

沢田 篤史

私の所属する情報理工学部ソフトウェア工学科では、3年生に進んで研究室に配属されると、配属先での「ソフトウェア工学演習(情報通信学演習II)」を通じ、本格的に卒業研究に着手するための素地作りが始まります。私の研究室では、この演習でLEGO Mindstormsという玩具のロボットのソフトウェアをチームで開発する実習をします。ソフトウェア工学は、納期やコスト、開発体制、技術環境など、様々な制約のもと、品質の良いソフトウェアをいかに効率良く作るかを追求する学問です。ソフトウェア工学の研究をするためには、ソフトウェアを作るという技術者の行為を、一段メタなレベルから眺められる能力を身につける必要はなりません。この能力は、一種の抽象的な思考力といえますが、実際のソフトウェア開発を経験することなく身につけることは困難です。

私のクラス



ざわだあつし
情報理工学部ソフトウェア工学科 教授

専攻分野: ソフトウェア工学
研究テーマ: ソフトウェア開発支援技術、ソフトウェアアーキテクチャ、ソフトウェア工学で、特に組み込みソフトウェアの開発支援技術に詳しい。
主な著書: 『組み込みシステム』(オライオン)
『組み込みシステム』(オライオン)
『組み込みシステム』(オライオン)
『組み込みシステム』(オライオン)

この演習では、4~6名程度のメンバーがこのような開発チームを編成し、一つのソフトウェア製品を作り上げます。ロボットにどう振る舞いをさせたいか、その振る舞いを実現するためにどのような制御が必要で、どのような構成のプログラムを開発すべきか、といったこと一切を自主的に決め、さらにソフトウェアを作り上げるための計画を立案し、チームリーダーを中心にその計画にしたがった開発作業をします。

授業では進捗確認のための口頭発表のほか、最終的には作成したソフトウェアでロボットを制御するデモンストレーションも行います。このような一連の開発を通して、ドキュメンテーションや計画の重要性、共同開発の難しさを体験します。実体験がソフトウェア工学の教科書的な知識を実開発へ着地させるきっかけになり、メタレベルの思考力が備わることを願いながら授業をしています。

南山のDNA DNADNADNADNA

大学時代だからこそ経験できることの大切さ

川手 朗子 外国語学部英米学科 2006年卒業

南山大学在学中にアメリカ留学を経験。大学卒業後、中部日本電機ソフトウェア株式会社へSEとして就職。現在、自動車のグローバル補給部品システムの構築に携わり、大学時代の経験を生かしながら、グローバルに活躍中。

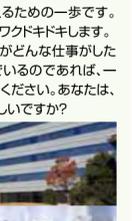


各方面で活躍する本学卒業生をリレー形式で紹介していくレディ版「南山のDNA」シリーズ、第10回となる今回は、システムエンジニアとして活躍の川手朗子さんです。

私が就職活動を始めたのは、留学から帰ってきてちょうど一ヶ月くらいした頃でした。周りの皆がどんどん内定をもらっていく中、私はいったいどんな仕事がいいのか、問々と悩んでいる時期が続き、成績もばつとせず、部活バイトに専念してきただけでもなく、小さい頃の夢があるわけでもない... いったい私は何がしたいのか、悩んだ私は、「自分は何が好きか、何をしたいときに一番楽しいか」と根本的なところに戻って考えることにしました。

そこで思いついたのが、「皆と協力して何かをつくること」でした。例えば、大好きな旅行では、「あとこへ行くところ、ここで何を食べてよ」と、一緒に行く人と旅程を組み立てていく準備段階が、実際に旅行するのと向くくらい好きでした。留学中の冬休み、友人と企画したアメリカ東海岸縦断旅行は、一ヶ月前から役割分担を決め、作戦を練って挑みました。準備をする段階からワクワクドキドキして仕方ありませんでした。そのように「皆で協力して何かをつくること」を通して様々な職業を見渡してみた時、たまたまSE(システムエンジニア)という職が目に残ったのでした。SEは、お客様より効率的に

業務を遂行できるようなシステムを構築するのがお仕事です。一日中パソコンに向き合っていることもあれば、お客様と要件を調整したり、逆に提案したりして、より利益がある方法は何かを模索しながら、システム構築のプロジェクトを進めていきます。当然、お客様や仲間と協力しながらでなければ、より良いシステムはできません。現在、私はその構築中のシステムのテストをする為に、オーストラリアへ出張に来ています。日々生じる課題や進捗の状況などを、オーストラリアのメンバーとしっかりコミュニケーションをとりながら、テストを進めています。このテストも、約半年後の本番を迎えるための一歩です。そう思うと、今からでもワクワクドキドキします。在学生の皆様、もし自分がどんな仕事かしたいのか分からなくて悩んでいるのであれば、一度立ち止まって考えてみてください。あなたは、何をしたいときに一番楽しいですか?



International Friendship

ACUCA学生キャンプに参加して

木村 麻里 (外国語学部英米学科1年) 本村 かおり (総合政策学部総合政策学科3年)

7月19日から22日まで韓国のテグで開催されたACUCA(アジア・キリスト教学生協会)主催の学生キャンプに参加した。このキャンプには日本他、香港、インドネシア、韓国、フィリピン、タイ、そして台湾の7つの国と地域、総勢73名の学生が集まった。今年は、「The Earth: Our Choices, Our Actions and Our Impact」をテーマに、今日地球上で深刻化しつつある環境問題をアジアのキリスト教信者としての立場から再検討し、神の創造したこの地球を維持していくというのがこのキャンプの目的である。4日間わたるキャンプ中には教授によるスピーチ、学生によるプレゼンテーション、グループディスカッション、現地の文化体験、各国の文化紹介、環境のやさしいモノづくり体験などが行われ、実に充実した思い出に残る時間を過ごすことができた。参加者のほとんどがキリスト教信者だということもあり、朝のお祈りももちろんのこと、食事中にもキリスト教の話題になるなど、特定の



宗教を信仰することはどういうことなのか、宗教は一体どんなものなのかということを感じ、知り、考える良い機会にもなった。もちろん私達を含め、キリスト教信者ではない参加者もいた。しかしながら、今回の学生キャンプでは異なる視点からの考え方を共有することで相互に刺激を享受しながら共有することができた。そんな日々の中で、白熱する学生同士の議論の時間は、最も有意義で濃密な時間であった。固執のキリスト教という概念と人間による貪欲な利便性の追求が生み出した環境問題という難題。互いに母国語ではない英語を駆使して、各々の知識、高い意識、人間が自ら生み出した問題に真剣に向き合う姿勢を伝えようとする気持ちが、熱気となって会場を熱くした。そして、この熱気がバトとなり次々と発言者に手渡された。アジアの学生として素晴らしい仲間を持てたことへの誇りと感謝、そして言語や異文化を越えて自分の意見を他者に伝えることから始まる世界への入り口とグローバル社会の意義を自分で感じる事ができた。この経験から学んだ、「自分を表現し、自ら参加することのすばらしさ」を胸に刻み、社会に還元できる人間になりたい。



8.5 2010年度総合政策学部秋学期入学者卒業式

総合政策学部秋学期入学者の2010年度卒業式が8月5日、瀬戸キャンパスにおいて挙行され、アジアの3つの国と地域(中国・ベトナム・台湾)の留学生8名を送り出した。



9.2 2010年秋学期外国人留学生別科入学式

2010年外国人留学生別科秋学期入学式が9月2日、名古屋キャンパスにおいて挙行され、世界25の国と地域から148名(内、継続5名)の留学生を迎えた。留学生たちは、入学式の後、オリエンテーションを受け、南山での留学生生活をスタートした。



Special events

10.9 野外宗教劇

10月9日(土) [雨天延期10月16日]、名古屋キャンパスのバックスクエアを舞台に、今年で44回目を迎える野外宗教劇「受難」が上演される。野外宗教劇「受難」は、カトリック大学である本学を代表する伝統行事であり、出演はもろろんのこと、演出、音楽、衣装、メイクといった裏方業務もすべて学生たちの手で行われる。野外のステージで壮大なスケールで行われる宗教劇をぜひご覧いただきたい。[18時開演、入場無料]



キャリアサポート・就職支援プログラム(秋)

キャリアサポートプログラム(予定)	
10月~11月	「キャリア入門～キャリアを考よう～」(学部と共催により実施)
10月13日(水)	「自分発見!講演会Jin Seto (講師/弊学ア代表取締役社長 菅安徳久氏) ※名古屋キャンパスよりサテライトを運行(14:30発キャンパス間シャトルバス)
10月20日(水)	一般常識テスト/職務適性テスト(名古屋・瀬戸キャンパス)
10月27日(水)	身だしなみ講座(瀬戸キャンパス)
11月10日(水)	身だしなみ講座(名古屋キャンパス)
11月24日(水)・12月1日(水)	働く現場見学ツアー(ANA中部空港線、リナイ他 他)

就職支援プログラム(予定)

10月~12月(毎週水曜)	業界・職種研究会「情報系」(瀬戸キャンパス)
10月~12月(原則月・水・金)	業界・職種研究会(名古屋キャンパス)
10月6日(水)	就職講座6「志望動機」(名古屋キャンパス)
10月9日(土)・16日(土)	SPI模試(名古屋キャンパス) ※有料
10月13日(水)	就職講座6「志望動機」(瀬戸キャンパス) 就職講座7「エントリーシートの書き方」(名古屋キャンパス)
10月20日(水)	就職講座6「志望動機」(瀬戸キャンパス) 就職講座8「ビジネスマナー」(名古屋キャンパス)
10月27日(水)	就職講座8「ビジネスマナー」(瀬戸キャンパス)
11月4日(木)	「ワークライフバランスフォーラム」(名古屋キャンパス) ※あいち子育て支援・働き方の見直し推進協議会との共催
12月8日(水)	SPI1フォローアップ講座 ※SPI模試(有料)受験者のみ対象(名古屋・瀬戸キャンパス)
12月15日(水)	第3回就職ガイダンス(瀬戸キャンパス) 第3回就職ガイダンス(名古屋キャンパス)

日程は変更の可能性があります。キャリア支援室Webページを随時確認してください。

Information

◆ 後援会定例評議員会・総会

南山大学在学生の父母などにより構成される南山大学後援会の定例評議員会・総会が6月26日、理事・評議員90名の出席のもと、名古屋ガーデンパレスで開催された。会議では、1)2009年度事業報告および決算報告 2)役員を選任 3)2010年度事業計画および予算について決議され、大学との共催による第38回「父母の集い」が9月25日(土)名古屋・瀬戸両キャンパスで実施されることが決定した。また学生生活、就職状況など大学の近況について報告された。



後援会Webページ
<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kouenkai/index.html>

2010年3月31日現在(単位:円)	
借 方	貸 方
預 金	133,693,282
計	133,693,282

◆ 友の会評議員会・総会

南山大学を支援する地域社会の一般および法人会員により組織される南山大学友の会の評議員会・総会が7月21日、名古屋ガーデンパレスで開催された。会議では、1)2009年度事業報告および決算報告について 2)2010年度事業計画および予算について決議され、それぞれ承認された。友の会は、外国人留学生・派遣留学生・学部生への奨学金給付などを通じ本学の教育活動に対する支援を続けており、議事終了後、安井義博会長より、今年度友の会奨学金の給付を受ける外国人留学生等に対し、奨学生採用通知書が授与された。

◆ 本学卒業生2名(渡辺利夫氏、横田順子氏)が大使に就任

政府が8月20日に閣議決定した外務省人事で、本学卒業生2名の大使就任が決定し、同日付で発令された。[ポリア大使] 渡辺利夫氏 1970年外国語学部イスパニヤ科卒業 [ラオス大使] 横田順子氏 1972年外国語学部英米科卒業



発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp
<http://www.nanzan-u.ac.jp/>

南山大学広報誌

NANZAN bulletin vol.174 2010.9.30

特集 Feature Article 聖南祭 第10回記念



My Road



未来へつづく道。



Special events

7.3-4 「大学で、未来の自分を探してみよう!」第3回・第4回・第5回

7月3日-4日、大学の先生や南山大学生と一緒に学ぶ楽しい体験型の講座、南山大学2010年度連続講座「大学で、未来の自分を探してみよう!」(全5回)の第3回~第5回が開催された。第5回「ロボットやリコモはどのように動くの?」は、理系の瀬戸キャンパス・情報理工学部による講座で、磁気浮上システムの実験装置の見学や二足倒立型の制御ロボットの操作などの体験企画、乾電池を使った簡単モーター作りも行われ、目の前で釘がグルグル回る様子が受講生の喜びの声があがっていた。

7.7 朝日新聞・メーテレ環境7大学 集中公開講座

今年度名古屋で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を機に、7月7日、名古屋キャンパスにTVキャスターの草野仁氏を迎え、「自然との調和」と題した講演会が行われた。草野氏は出身地である雲仙(長崎県)の自然環境についてのほか、自身の生い立ちとともに守らなければならない身近な自然について語られた。

7.18 オープンキャンパス

2010年度オープンキャンパスが、7月18日に名古屋・瀬戸両キャンパスで開催された。瀬戸キャンパスでは、今年度名古屋で開催されるCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に合わせた特別企画や情報理工学部の実験を体験できるツアーなどを実施した。参加者は名古屋キャンパス5465名、瀬戸キャンパス623名、合計6088名で史上最高の来場者数であった。キャンパスで教員や在学生などと接することで、本学の良さを実感していただけたことと思う。



7.24-27 名古屋アメリカ研究夏期セミナー(NASSS 2010)

名古屋アメリカ研究夏期セミナー(Nagoya American Studies Summer Seminars, 2007~2011:通称NASSS)が、7月24日から27日にかけて、名古屋キャンパスおよび南山学園研修センターを会場として開催された。4年目を迎えた今年は「記憶の共有を目指して」をテーマとし、専門家会議(初日は一般公開)に加えて国内外大学院生が集う「国際大学院生セミナー」が開催され、日米をはじめアジア・太平洋地域で地域研究にたずさわる専門家・若手研究者たちによる活発な議論が行われた。



